
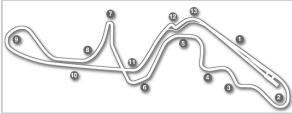


吉本大樹、3年連続のポッカ1000Kmスポット参戦

update 2008/08/12

コース情報

GP名:	 SUPER GT SERIES R.6 International Pokka 1000Km
開催日:	22-24 August, 2008
サーキット名:	Suzuka
サーキット詳細:	 <p>今年もやってきた真夏の祭典 SUPER GT Pokka1000Km。昨年、一昨年と紫電の第3ドライバーとして同レースに参戦、昨年は優勝に貢献する走りを見せた吉本大樹。今回の参戦も過去2年同様「Cars Tokai Dream28」からとなり、高橋選手、加藤選手の両選手と共に2連覇に向けた快走が期待される。</p> <p>【Schedule】</p> <p>2008年8月22日(金) 練習走行 2008年8月23日(土) スーパーラップ(公式予選) 2008年8月24日(日) 決勝レース</p> <p>SUPER GT SERIES OFFICIAL SITE</p>

決勝第1レース

24 August, 2008

紫電、無念のリタイヤ。2連覇はならず…

前日は大雨にたたられたものの、朝までには雨も上がり迎えた日曜日。前日の予選でタイムを記録できず決勝出走の基準タイムをクリアしていなかった高橋選手は予選2回目となったこの日朝のフリー走行で難なくタイムをクリアし決勝を迎える事となった。

毎年暑さとの戦いにもなるこのレース。しかし今年は若干様相が異なり各マシンがグリッドに着けた12時過ぎの時点でも立っているだけでは時折涼しさすら感じるコンディションとなった。4番グリッドに着けた紫電のトップバッターは加藤選手。そしてスケジュール通りの13:00にフォーメーションに出た各マシンは、その後きれいにローリングの隊列を組み最終コーナーを上がってくる。この注目のスタートで加藤選手はまずまずのスタートを切ると4番手のポジションを守ったまま1コーナーに入っていく。早い段階でポジションを上げておきたい紫電を操る加藤選手はスタートから猛ブッシュ。2周目にはこの日のベストタイムとなる2' 10" 793のラップタイムをマークしながら3番手にポジションアップ。その後もトップ3台が数珠繋ぎの状態では進み加藤選手は前を行くマシンにプレッシャーを与えていく。一度は後方から追い上げてきたユンケルパワータイサンポルシェにポジションを譲るものの、徐々にポジションを上げ15周目にトップのマシンを捕らえオーバーテイク、ついにトップに浮上する。その後は後続との差をコントロールする形で41周目が終了した時点でピットイン、吉本へとステアリングを託す。しかしここで紫電にまず最初のアクシデントが起こる。

まずピットロードでトラブルを抱えたマシンに引っ掛かりタイムをロスしてしまったうえ、加藤選手とのドライバーチェンジをスピーディーに行った吉本だったが作業を終えエンジンを再始動しようとするもエンジンがかからない！なんとかエンジンに火が入るとタイヤスモークを上げながらすぐさまピットを後にした吉本。コース復帰直後は7番手のポジションだったものの、ピットで大幅にロスしてしまった差を詰めるべくコンスタントに2分11秒台でラップを重ねながら、ここから徐々にポジションを上げていく。「後半のタイヤの事を考えてかなり押さえ気味で走った」という吉本は、他車のピットインと自らのオーバーテイクでコースインから5周目には5番手にポジションアップ。その後も常にライバル勢を上回るペースで周回を重ね、レース55周目の時点で21秒あったトップとの差をどんどんと詰めていく。64周目には前を行くマシン2台がピットストップを行ったことでポジションを上げ3番手となり、残るは事実上勝負を争うトップの2台でその差は約10秒までに狭まっていた。それまで封印していたペースをここから上げた吉本はその差を一気に縮めていき迎えたレース75周目、吉本はついにトップと2番手のマシンを射程圏内に捕らえる。

その勢いはこの周回で一気にトップに躍り出る雰囲気すら感じさせたものの、ここは後ろから来た500クラスのマシンが間に入り仕切り直しに。それでもその翌周へアピンでは再度テール・トゥ・ノーズに持ち込みオーバーテイクのチャンスを狙っていく。ところがこの周回でも後ろから500クラスのマシンが近づいてくる。しかし吉本はこの緊迫したトップ争いの最中でも冷静に状況を判断、自らがタイムをロスしないで済む裏ストレートで500クラスのマシンを先行させると前を行くマシンにピッタリと付け77周目へと入っていく。するとそのプレッシャーから前を行く2番手のライトニングマックイーン apr MR-SがS字でコースアウト、吉本が2番手に浮上する。さらにその勢いでトップのMOLアレオパレスZを捉えると迎えた翌78周目、S字でピッタリと背後にマークした吉本は後ろから迫ってきた500クラスのマシンを上手く利用しダンロップコーナーでトップに躍り出る。数周後に迫ったピットインまでに少しでもマージンを広げたい吉本は40周近

く走っているとは思えない程の好タイムを刻むハイペースのまま82周目にピットイン。吉本は自らに与えられたステイントで7番手からトップに浮上し高橋選手にステアリングを受け渡すことに成功した。

そのステアリングを受けた高橋選手も好ペースで周回を重ねていく。このままいけば「2連覇は固い」と誰もが思ったその矢先、紫電をまさかのアクシデントが襲う。突如としてモニターに映し出されたのはヘアピンで他のマシンと共にコースアウトを喫し動きを取れなくなっているカーナンバー2のマシン。後方からは2番手が迫っているにも関わらず周回遅れのマシンが青旗に気付かず1周に渡り行く手を阻んだ為、我慢を切らした高橋選手がヘアピンでインに入ると2台は接触してしまったのだ。数分後再スタートを切るものの接触によりマシンは右フロント部分が激しく破損しておりまともに走行できる状態ではなくなっていた。高橋選手は何とか自力でピットまでたどり着くがここでマシンを降りることになってしまう。これにより紫電の2連覇の夢は費えたものの、この時点でチェッカーまでの予想時間は約2時間強。メカニックはこの状況のなかでも何とかマシンを再度コースに送り出そうと必死の修復作業を開始する。しかしマシンの破損は予想以上に激しく再コースインは叶わず。結果、悔しいリタイヤとなりここでレースを終えることとなった。



SUPER GT SERIES R.6 (Suzuka) / Final

Text : www.hiroki-yoshimoto.com Photo : www.hiroki-yoshimoto.com & Cars Tokai Dream28

吉本大樹 のコメント

フリー走行から3人とも良い形でスタートが出来ました。予選はウエットでポールには届かなかったものの、加藤さんがヨコハマ勢トップタイムの4番手を出してくれて凄いい形で日曜日を迎える事が出来ました。紫電は今とてつもなくストレートスピードが遅いのですが、それでもレースで1ステイント目の加藤さんはトップを奪ってくれました。加藤さんのピットイン時にピットロードでゆっくり走るマシンにひっかかってしまったり、エンジンがなかなかからなかったりで僕のステイントでは事実上争っている2台に大きく差をつけられてしまいましたが、落ち着いてタイヤを最後まで温存させながら走らせ再びトップに出てピットに戻る事ができたのは良かったです。ただ、最初のピットインでのタイムロスがひびいてしまい、僕がピットに戻った時点で去年程の-marginをもっていた訳ではなかったこと、絶対に優勝したいという皆の気持ちが焦りに変わってしまいリタイヤとなってしまって残念です。でもこれがレース。攻めた結果なのでしかたがありません。紫電にこれまで3シーズンリタイヤが無かったこと自体がミラクルですから。



これで事実上チャンピオンシップは非常に厳しくなってしまいましたが、高橋さんと加藤さんにはこれから考えられるベストな状態でシーズンを終えてほしいと思います。3年連続で出場させてもらった今年の1000kmは終わりましたが紫電の戦いはまだ続きます。引き続き『カース東海ドリーム 28 / プリヴェ KENZOアセット・紫電』への熱いを応援宜しくお願いします。

応援してくれた皆さんありがとうございました。

決勝第1レース - リザルト

【Cars Tokai Dream Result】 / (22-24th August, 2008)

8月22日(金)

- フリー走行1回目 : 1 st : 2'07"411
- フリー走行2回目 : 2 nd : 2'08"682
- フリー走行2回目 : 7 th : 2'10"173

8月23日(土)

- Qualify 1 : 4 th : 2'23"919
- * スーパーラップは雨によるコンディション悪化により中止

8月10日(日)

- Final : DNF

公式予選

23 August, 2008

豪雨でスーパーラップ中止。紫電は予選4番手

一夜明け迎えた公式予選日。鈴鹿地方は前日夜から激しい雨が降りしきり、この日のサーキットは完全なウェットコンディションとなった。

朝は一時若干雨脚が弱まった時間帯もあったものの、9:50から1回目の公式予選セッションが開始されると、直後にはまた雨脚が激しさを増してきた。そのコンディションの中まずコースへと向かったのは加藤選手。加藤選手はまず2'26"6の7番手タイムを刻むとそこから徐々にベースアップ。2'25"5で6番手に上がるとセッション終了間際には2'24"248をマークし4番手にポジションアップ。ここでまず300クラスの予選が終了となり加藤選手がピットへと戻ってくる。その後に行われた20分間の500クラス予選中に雨脚が弱まっていくが続いて行われた混走セッションの路面状況は依然として完全なウェットコンディション。このセッションで最初にステアリングを握った吉本は決勝出走への基準タイム(予選トップタイムの107%)をクリアするためのアタックを1周行いピットイン、再度加藤選手にステアリングを託す。若干雨が弱まったことでライバル勢もタイムアップを果たしていくなか時間を惜しむようにピット前でドライバーチェンジを行った紫電はすぐさまピットアウト、アタックへと入っていく。すると加藤選手はここで2'23"919をマーク。最終的にこのセッションを4番手で終えることとなった。

午後に入り行われる予定であった公式予選2回目と上位10台の決勝スターティンググリッドを決めるスーパーラップ。しかし1回目の予選終了後に雨脚が再び強まりコース上はそこかしこに水が溜まるヘビーウェットの状態に。GT公式予選2回目の前に行われたF4のレースでは何台ものマシンが単独でスピンを喫し最後はセーフティカーの先導～赤旗でレースが終了となる等、コンディションは悪化の一途を辿っていく。すると公式予選2回目開始予定時刻の前にまずは「スーパーラップの中止」がアナウンスされ、程なくして「公式予選2回目の中止」も正式にアナウンスが出される事となり、これにより決勝のスターティンググリッドは1回目の予選結果により決定されることとなったのと同時に、予選2回目は翌日朝のフリー走行の時間帯へと移されることとなった。スーパーラップでの更なるポジションアップを狙っていたカーズ東海ドリームとしては残念な結果となってしまったと共に、この時点でこの日の予選に出走していなかった高橋選手は翌日のフリー走行(予選2回目)で基準タイムをクリアしなければならなくなった。



SUPER GT SERIES R.6 (Suzuka) / Qualify

Text : www.hiroki-yoshimoto.com Photo : www.hiroki-yoshimoto.com & Cars Tokai Dream28

公式練習

22 August, 2008

紫電、初日総合トップタイムをマーク

今年も真夏の祭典「Pokka 1000Km」にカーズ東海ドリーム28・紫電の第3ドライバーとして参戦することとなった吉本大樹。吉本は昨年、目まぐるしく変わる難しいコンディションの中で見事な走りと冷静な判断によりチームの優勝に貢献しており、今年はその再現＝2連覇にむけ大きな期待を背負っての参戦となった。

迎えた初日、金曜日のフリープラクティス。初日から厳しい暑さとの戦いとなった昨年のイメージとは異なり、午前中のセッションは上空にうっすらと雲がかかりわずかながら涼しさも感じるコンディションのなかで行われた。

この1000Km2連覇にむけ強い意気込みを見せるカーズ東海ドリームは、まずは加藤選手がステアリングを握りコースイン。その加藤選手が一番コンディションの良かったこのタイミングでこの日のGT300クラス総合トップタイムとなる2'07"411をマークし高橋選手へとドライバーチェンジを行う。ステアリングを受けた高橋選手もライバル勢を上回る好ペースで周回を重ね、その後セッション残り10分弱となったところでピットイン。ここでいよいよ吉本がマシンへと乗り込んでいく。セッション終盤での走行となった吉本はユーズドタイヤながら安定したタイムでラップを重ねていき、タイヤライフの確認等をこなしこのセッションを終了した。

午後に入り行われた2回目のセッション。まずは午前中と同じく加藤選手がコースイン。吉本はその後を引き継ぎ走行を行い、1度のピットインを挟みマシンのセットアップを進める。その後300クラスの占有走行となったところで高橋選手とドライバーチェンジ。カーズ東海ドリームは夕方に行われたナイトセッションでも3人のドライバーがそれぞれ順調にプログラムを消化。初日を総合トップで終え翌日の公式予選に挑むこととなった。



SUPER GT SERIES R.6 (Suzuka) / Free Practice
Text : www.hiroki-yoshimoto.com Photo : Cars Tokai Dream28